

まちづくりの現況

1. 広域的な位置づけ・・・・・・・・・・ 1
2. 湯沢町の現況・・・・・・・・・・ 3

1. 広域的な位置づけ

湯沢町は、新潟県を7つの圏域に分けた広域圏のうち「魚沼圏域」に位置している。

その中で、南魚沼市及び魚沼市とともに「魚沼地域定住自立圏共生ビジョン」を構成している。

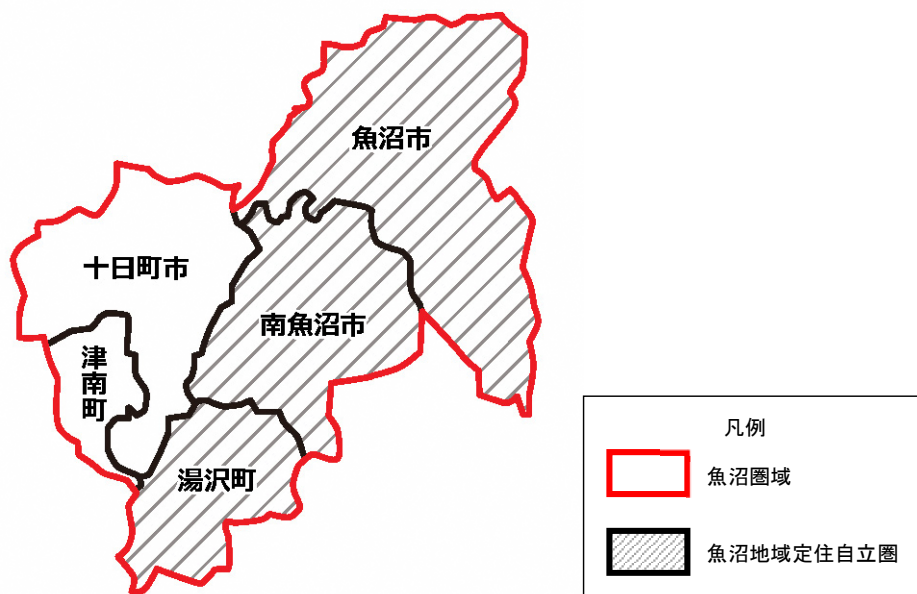


図. 湯沢町に係る広域圏

また、湯沢町、魚沼市、南魚沼市、十日町市、津南町、みなかみ町、栄村の7市町村を圏域として、平成20年（2008年）に雪国観光圏を設立し、首都圏からのアクセス性の良さを生かした企業研修の誘致や圏域に点在する温泉地を核とした滞在型観光など、観光を軸にした地域振興を推進している。

○広域計画

①魚沼圏域広域都市計画マスタープラン 平成 29 年 3 月 新潟県（抜粋）

1. 圏域の特徴

魚沼圏域は、十日町、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町の 3 市 2 町により構成される。

2. 圏域の将来像

（2）広域的な都市づくりの方針

①圏域の目標 豊かな自然・雪・伝統を活かして交流が広がる定住圏域

- 1) 地域文化や雪とともに持続的に発展する圏域の形成
- 2) 広域ネットワークの強化による多様な交流の支援
- 3) 自然や文化など多様な地域資源の保全と活用
- 4) 豪雪をはじめとする自然災害に対する暮らしの安心・安全確保

②広域的な都市づくりの方針

1) 土地利用

○都市機能の適正な誘導

- ・市街地の拡大は抑制し、既存の住宅地や都市基盤を有効に活用していく必要がある。
- ・医療・福祉、商業、行政などの機能を居住が集中している地区や公共交通のアクセスの良い地区に集約化するなど、都市機能の適正な誘導を図り、コンパクトな都市づくりを目指す。

②魚沼地域定住自立圏共生ビジョン 平成 28 年 10 月 魚沼市・南魚沼市・湯沢町（抜粋）

1 定住自立圏の名称及び構成市町

名称	構成市町
魚沼地域定住自立圏	南魚沼市、魚沼市、湯沢町（2 市 1 町）

2 策定の目的

中心市宣言をした南魚沼市と、その宣言に賛同した魚沼市及び湯沢町の間でそれぞれ締結した「定住自立圏形成協定」に基づき、魅力ある圏域の形成を図るため、適切に役割を分担しながら圏域全体として目指すべき将来像を掲げるとともに、その実現に向け、生活機能、結びつきやネットワーク及び圏域マネジメント能力の観点から、今後、連携して推進する具体的な取組を示すもの。

3 計画期間

平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間

4 人口

平成 22 年の国勢調査による本圏域の人口は、110,381 人であり、平成 17 年の 115,523 人と比べ、5,142 人、約 4.5%減少している。

2. 湯沢町の現況

(1) 土地利用現況

- 用途地域指定区域は山林と河川に挟まれた地形的制約により、細長い形状をしており、鉄道や高速道路、国道が縦貫している。
- 用途地域指定区域内は、住宅や農地利用が多い。
- 商業用地や工業用地は越後湯沢駅周辺及び国道 17 号沿道に立地している。

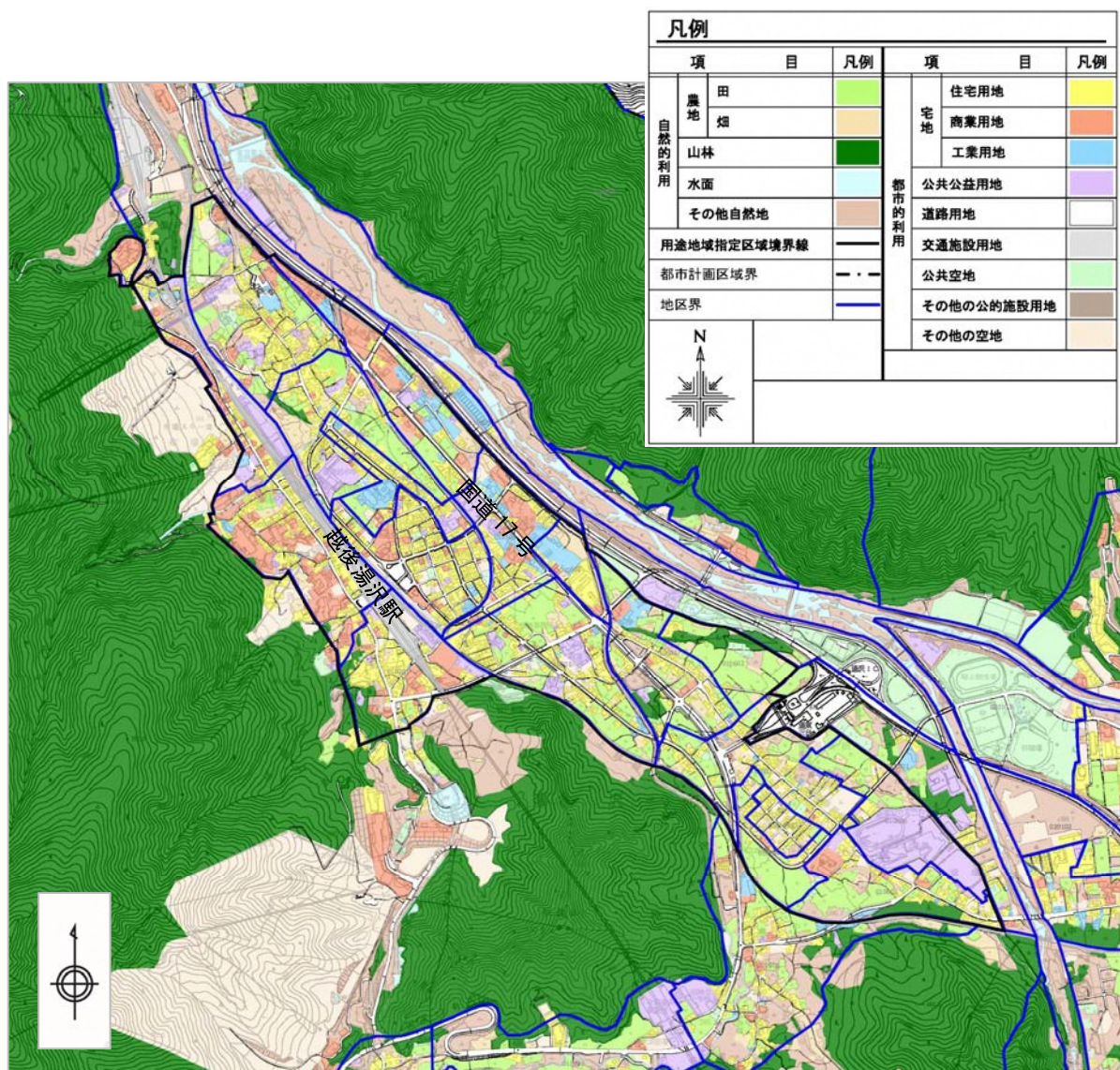


図. 用途地域指定区域周辺の土地利用現況

資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

(2) 都市施設の整備状況

- 都市施設の整備状況は、道路は8施設が整備済み、6施設が整備中、公園は7施設が整備済み、5施設が整備中であり、駅前広場と駐車場、砂防設備は全て整備済みである。
- 用都市地域指定区域内のほとんどは下水道が供用済みである。

表. 都市施設一覧表

施設種別	都市施設名称	備 考	施設種別	都市施設名称	備 考
道路	3.5.1 湯沢温泉線	県道	公園	5.5.1 中央公園	総合公園
	3.5.2 南滝沢線			3.3.1 主水公園	近隣公園
	3.5.3 主水楽町線			2.2.1 滝沢公園	街区公園
	3.5.4 主水中島川原線			2.2.2 大石田公園	街区公園
	3.4.5 越後湯沢停車場岩原線	県道		2.2.3 地藏堂公園	街区公園
	3.5.6 主水奈良山線			2.2.4 駅前公園	街区公園
	3.3.7 城平線			2.2.5 奈良山公園	街区公園
	3.4.8 中央線	一部県道		2.2.6 神立公園	街区公園
	3.4.9 国道17号線			2.2.7 原新田公園	街区公園
	3.5.10 東山線			1 一之沢墓園	特殊公園（墓園）
	3.5.11 原新田岩原線			2 城平墓園	特殊公園（墓園）
	3.5.12 宮林1号線			1 穴沢河川公園緑地	緑地
	3.5.13 大野原線		駅前 広場	東口駅前広場	
	3.4.14 宮林岩原線	県道		西口駅前広場	
砂防 設備	ツナギ川砂防設備	砂防ダム1基、調整池1基、流路工L=665m	駐車 場	滝沢駐車場	地上1階自走式

資料：新潟県の都市計画、湯沢町資料

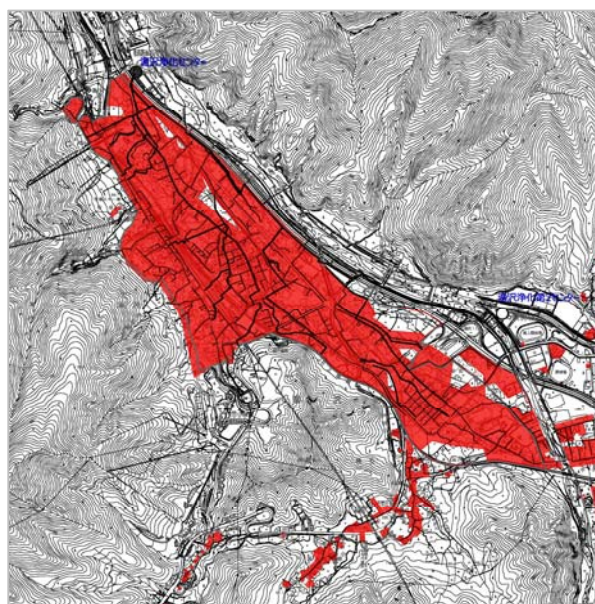


図. 下水道整備状況

凡例			
項 目		凡	例
		整備済	未整備
管 路	幹線	——	■■■■
	支線	——	----
処理場		●	○
ポンプ場		■	□
供用済区域		■	■
計画区域		■	※
都市計画区域界		— · — · — · — ·	
用途地域指定区域境界線		——	

資料：平成29年度都市計画基礎調査

(3) 人口

① 総人口

- 本町の総人口は平成2年に9,986人でピークを迎え、その後は減少傾向となり、平成27年では8,046人であった。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2045年の総人口は5,375人とされている。
- 高齢者人口は、平成27年では33.9%、2045年では50.3%まで増加する見通しである。

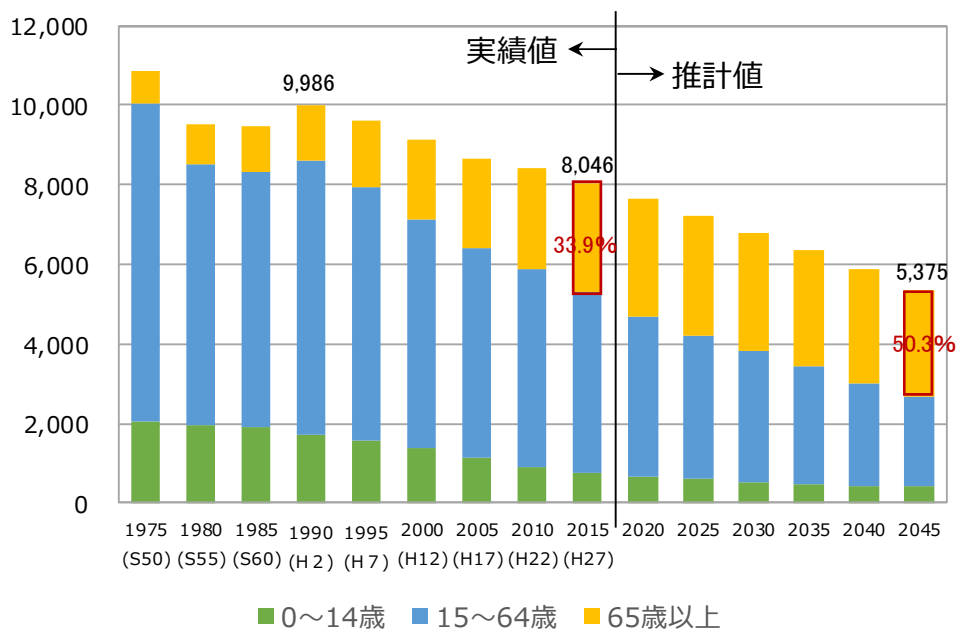


図. 総人口及び年齢3階層別人口割合の推移と見通し

資料-日本の地域別将来人口（平成30年（2018）年推計）国立社会保障・人口問題研究所

②人口動態（自然動態）

- 自然動態がマイナスの状況が続いている。
- 県及び南魚沼市と比べて低い値となっている。

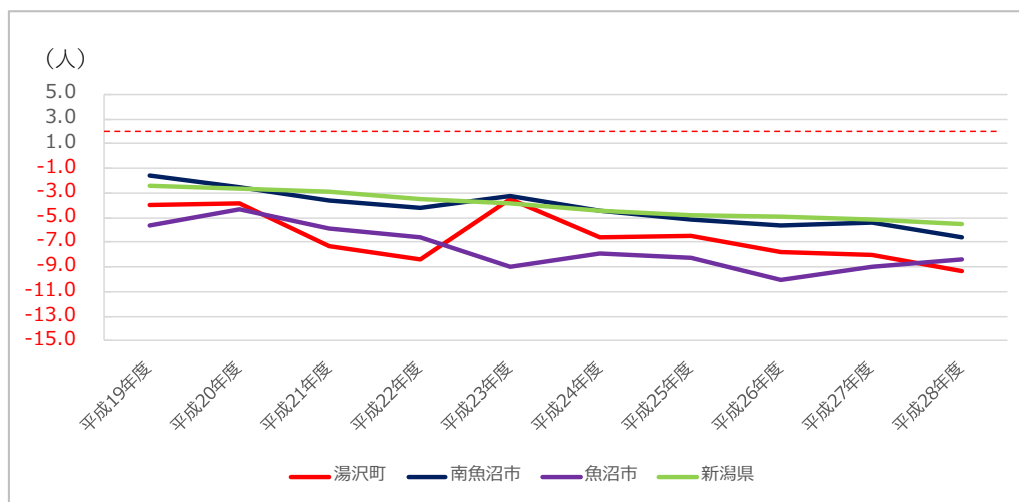


図. 県及び近隣自治体の人口千人あたり自然動態の推移

資料-新潟県人口移動調査

③人口動態（社会動態）

- 平成 21 年、平成 24 年、平成 25 年、平成 28 年は、転入者が転出者を上回っている。
- 本町の社会動態は、県及び近隣自治体で転出超過が続く中、転入者が転出者を上回る年もあり、比較的高い値で推移している。

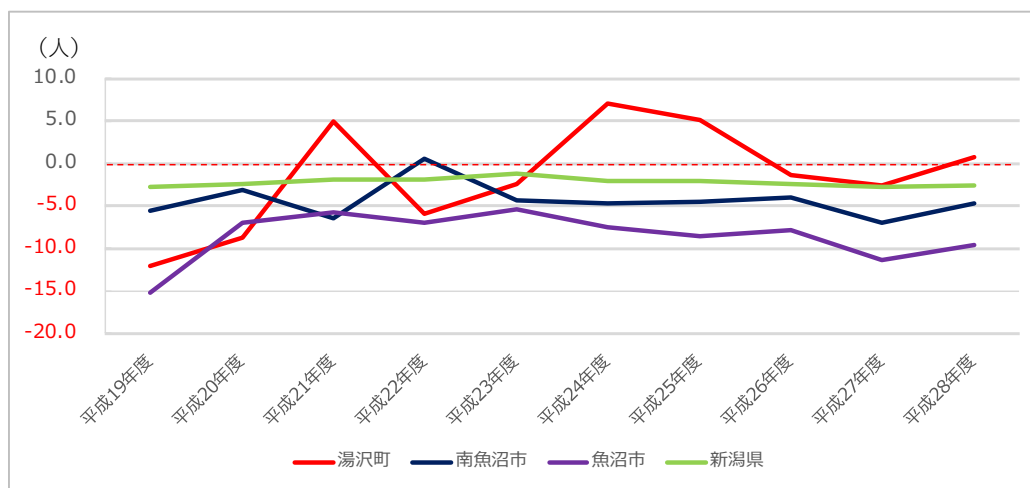


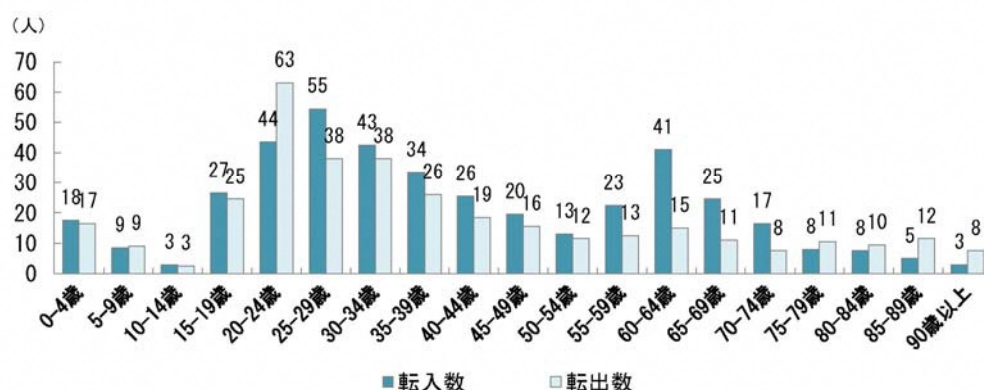
図. 県及び近隣自治体の人口千人あたり社会動態の推移

資料-新潟県人口調査

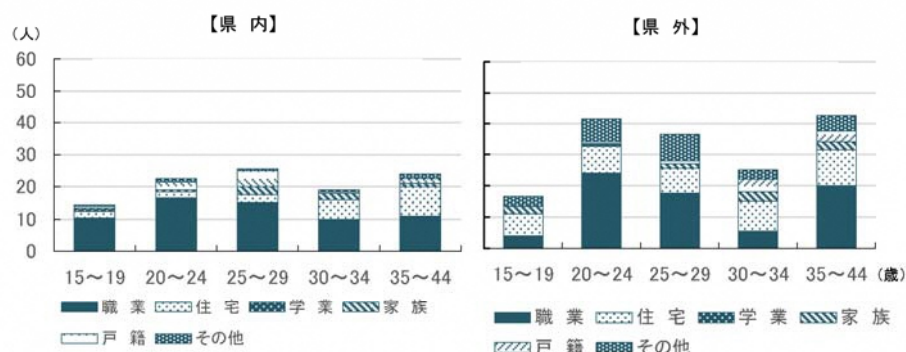
④年齢別転入・転出の状況

- 特に 20 歳代、30 歳代で転出が多いほか、50 歳代後半から 60 歳代で転入数が増えている。
- 年齢別・移動元・先別の転居理由をみると、転入理由では、特に 20 歳代で「職業」の数が高くなっている。
- 県内の 30 歳代及び県外から転入者では、「住宅」の人数も比較的高くなっている。
- 10～20 歳代前半までは「学業」や「職業」を理由に県外へ転出する人が多く、30 歳代後半では「住宅」を理由に県内に転出する人数が多くなっている。

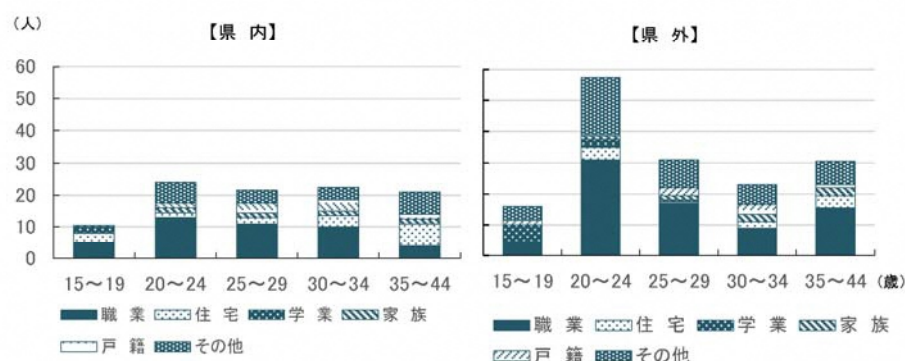
図表 年齢別 転入数・転出数の推移（2012-2013 年平均値）



図表 転居理由別 転入者数（平成 24-25 年平均）



図表 転居理由別 転出数（平成 24-25 年平均）



資料：新潟県人口移動調査

資料-湯沢町人口ビジョン

⑤地区別人口構成比

- 全ての地区で少子高齢化が進行している。
- 土樽地区は、リゾートマンションへの定住による増加が見られ、また、高齢者人口構成比が他地区に比べ高いことから、リゾートマンションへの定住は高齢者が多いものと考えられる。

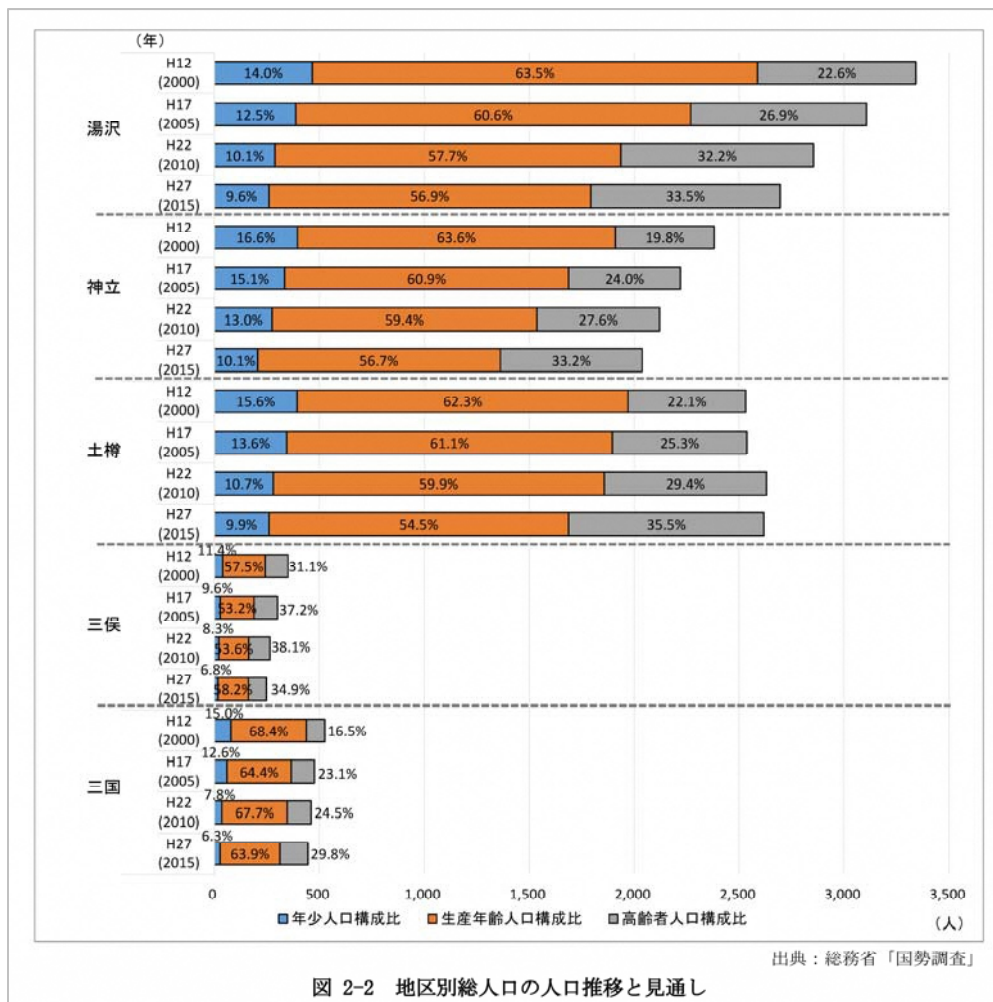


図 2-2 地区別総人口の人口推移と見通し

資料-湯沢町公共施設等総合管理計画 平成 29 年 3 月

(4) 産業構造

①産業別就業人口の推移

- 第1次産業及び第2次産業は減少が続いている。
- 第3次産業も平成7年をピークに減少しているものの、就業者数の約8割を占めている。



資料-湯沢町人口ビジョン

(5) 観光

①観光客数の推移

- 平成 28 年度は 439 万 8 千人の観光客が訪れている。目的別では、スキーは 247 万 3 千人、温泉が 100 万 8 千人であった。
- 一時期、年間 400 万人を下回ったものの、回復傾向が見られる。
- 観光客の大半は冬季（スキー）に訪れており、四季を通じて観光客が訪れるよう、地域の歴史や文化、恵まれた自然を活かした通年型観光地となる取り組みを進めている。

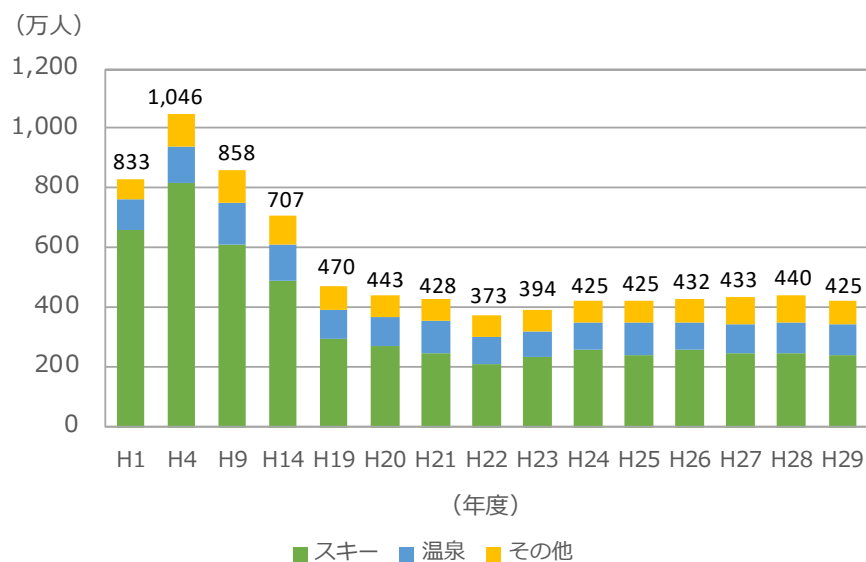


図. 目的別観光客数の推移

資料-湯沢町資料

(6) ハザード区域

- 用途地域指定区域内に土砂災害特別警戒区域と土砂災害警戒区域がある。

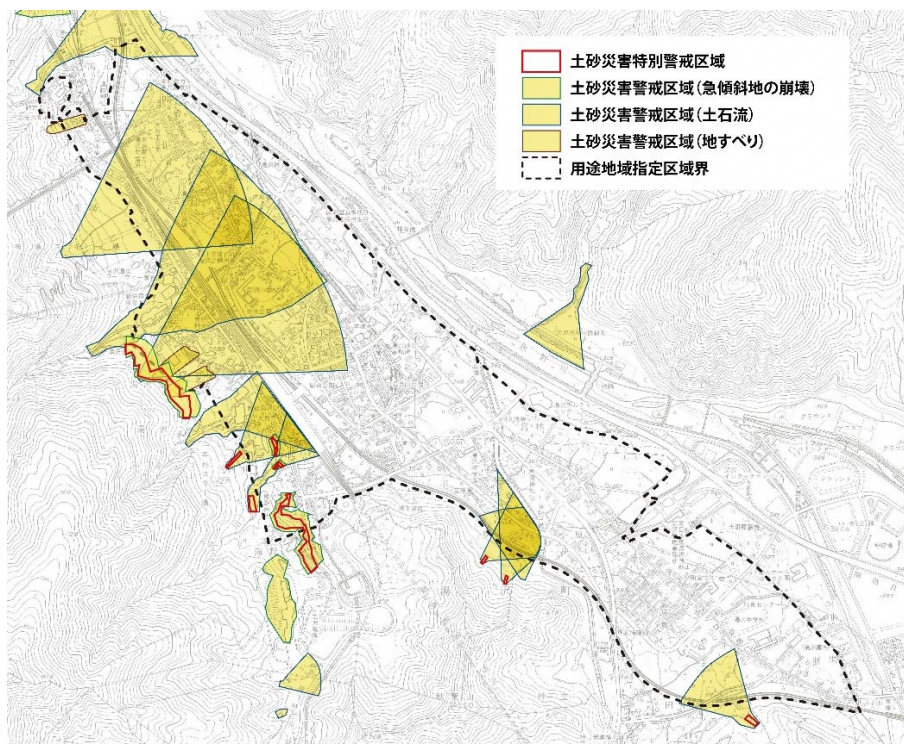


図. 土砂災害特別警戒区域と土砂災害警戒区域

資料-湯沢町土砂災害ハザードマップ H27.4 現在 より作成